

様式 3-2【新規】 研究課題 1 中学校

令和 2 年度研究成果中間報告書

【新規：令和 2～令和 3 年度指定】

| | | | | | |
|-------------------|---|------------|---------|------------|-------|
| 都道府県・指定都市番号 | 2 | 都道府県・指定都市名 | 青森県・青森市 | 研究課題番号・校種名 | 1 中学校 |
| | | | | 教科名 | 外国語 |
| 研究課題 | 学習指導要領の趣旨を実現するための学習・指導方法及び評価方法の工夫改善に関する実践研究 ②全国学力・学習状況調査の出題のねらい及び結果分析等に基づいた指導過程や指導方法等の研究 | | | | |
| ふりがな 学校名（生徒数） | あおもりしりつみなみちゅうがっこう 青森市立南中学校（653 人） | | | | |
| 所在地（電話番号） | 〒030-0845 青森県青森市緑 2 丁目 6 番地 1 電話（017-734-4164） FAX（017-734-4165） | | | | |
| 研究内容等掲載ウェブサイト URL | www.aomoricity.ed.jp/minamichu | | | | |
| 研究のキーワード | ・目的や場面、状況などを授業で共有する ・よく聴く ・自らの考えを持つ ・学び合う | | | | |
| 研究結果のポイント | ○実生活に即した学習課題の設定で相手意識を持ったやり取りを行うことができた。 ○一人一台端末を活用した ALT とのやり取りを通して生徒のモチベーションが向上した。 ○既習事項を生かしながら具体的な課題について即興でやり取りを行う Challenge Talk に挑戦する場を 1 時間に複数回設定することで、生徒同士が自分の考えや意見を共有する時間が増え、仲間の表現を互いに活用するようになった。また、そのことで生徒の発話量や書く量が増加した。 | | | | |

1 研究主題等

(1) 研究主題

より高い課題の解決を目指し、よく聴き、自らの考えを持ち学び合う生徒を育成する学習指導の研究

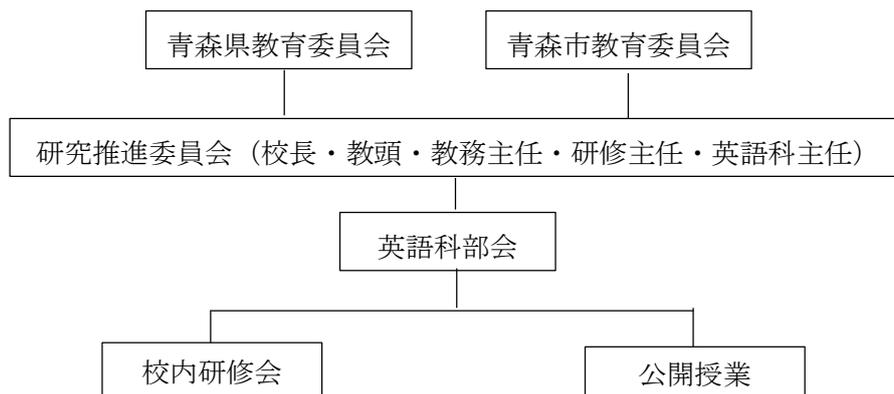
(2) 研究主題設定の理由

全国学力・学習状況調査の質問紙調査では、「自分の意見を進んで表現しているか」「自分の考えを他の人に説明したり文章に書いたりすることは得意か」という質問に対して、本校の生徒は全国平均に比べると高いものの、生徒の実態から考えると自己評価が低い。自分の発言が的確に伝わっている実感がない、的確に伝える自信がないことから、積極的に表現することができないのではないかと推察できる。

外国語科においても同様の状況が見られる。コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを明確にし、複数の領域を統合した言語活動の場を日常的に設ける必要がある。また、学び合いを通して、自分以外の考え方や伝え方に触れることで表現の幅が広がり、自信を持って伝えようとする生徒が育つと考え、研究主題を設定した。

様式 3-2【新規】 研究課題 1 中学校

(3) 研究体制



(4) 1年間の主な取組

| | |
|-------|--|
| 令和2年度 | <ul style="list-style-type: none">○研究課題等の決定, 英語科研究計画, 年間指導計画の作成【4月】○英語科教科部会, 授業実践の累計と考察【通年】○知能検査・NRT 標準学力検査の実施と結果の考察【5月】○英語科職員による授業実践発表(授業撮影)と研究協議会【10月】○授業実践の研究協議会(市川調査官, 清水調査官による指導助言)【10月】○公開研究会と研究協議会(県教委による学びの質を高めるプロジェクト事業)【11月】○英語科職員による授業実践発表(授業撮影)【12月】○パフォーマンステストと生徒アンケートの実施【12月, 1月】○授業実践の研究協議会(市川調査官, 清水調査官による指導助言)【1月】○研究の成果・問題点の整理○国立教育政策研究所教育課程研究指定校事業研究協議会での中間報告【2月】 |
|-------|--|

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

- ①学校教育全体における, よく聴くことを重視した学び合い活動の実践
- ②外国語科における, 4技能5領域を意識した言語活動の場の設定
 - ・授業における南中版 CAN-DO リストの活用
 - ・「即興的なやり取り」を日常的に継続する授業展開
 - ・「深い学び」につながる教材の活用方法および情報共有
- ③生徒の表現および表現しようとする意欲を高めるための評価の在り方の研究
 - ・講師を招いた勉強会の実施
- ④教師の学び合いの場の充実
 - ・指導案検討会を中心とした授業の在り方の研究

様式 3-2【新規】 研究課題 1 中学校

(2) 具体的な研究活動

①学校教育全体における、よく聴くことを重視した学び合い活動の実践

各教科等でペアやグループ学習などを活用し、学び合い、教え合いの場を設定した。

②外国語科における、4技能5領域を意識した言語活動の場の設定

・授業における南中版 CAN-DO リストの活用

生徒が各単元において「何ができるようになるか」を意識しながら、主体的に学習課題に取り組むことができるよう、ターゲットとなる技能や語数を示したり、CAN-DO リストに基づいて単元等の振り返りを行ったりした。

・「即興的なやり取り」を日常的に継続する授業展開

教科書の単元を基にコミュニケーションを行う目的や場面、状況などを意識した具体的な課題を設定した。

自然なやり取りの中で、複数の領域を統合することができる言語活動を設定した。

・「深い学び」につながる教材の活用方法および情報共有

教科書を活用しながら、実生活に即した内容につながるよう授業を展開した。その取組を教員間で共有した。

③生徒の表現および表現しようとする意欲を高めるための評価の在り方の研究

・講師を招いた勉強会の実施

コロナ禍のため、勉強会の実施は今年度末に1回実施予定。来年度、本格的に実施する。

④教師の学び合いの場の充実

・指導案検討会を中心とした授業の在り方の研究

英語科で指導案検討会を行い、授業実践、研究協議の場を設けた。

ICT 機器を活用した取組

コロナ禍、GIGA スクール事業推進により、生徒一人一人に1台端末が配付されたことを受け、ICT 機器を活用した取組を行った。

・個人のスピーキングやペアでの対話を録画

端末に個人のスピーキングやペアでの対話を録画し、本人の振り返りにつなげたり、教師が各生徒の現状を把握するために使用したりした。また、学級全体で模範となる映像を視聴したり、スピーキングが不得意な生徒に映像を繰り返し確認させるなど個別の支援を行ったりした。

・プレゼンテーション用のスライドを作成

ALT に日本の言葉について紹介する機会を設けた。端末にインストールされているプレゼンテーションソフトでスライドを作成した。ALT には作成したスライドを示しながら説明を行った。

・複数台の端末で ALT とビデオ通話（パフォーマンステストを含む）

複数台の端末にビデオ通話が可能なアプリをインストールすることによって、複数の ALT と同時に1対1の対話やパフォーマンステストを行った。また、生徒がそれぞれの端末を使用することで、密を避けながらもペアで協力して ALT と対話する機会を設定した。

様式 3-2【新規】 研究課題 1 中学校

3 研究の成果と課題 (○成果●課題)

- ①学校教育全体における、よく聴くことを重視した学び合い活動の実践
- シェアや教え合いの時間が増え、仲間の表現を互いに活用するようになり、表現の幅が広がった。
- ②外国語科における、4技能5領域を意識した言語活動の場の設定
- ・授業における南中版 CAN-DO リストの活用
 - 学習課題と南中版 CAN-DO リストを提示することで、各学年終了時と単元のゴールを意識して、その日の授業に取り組むことができた。
 - CAN-DO リストそのものが効果的に活用されたかを検証する場が設けられていなかった。
 - ・「即興的なやり取り」を日常的に継続する授業展開
 - 目的や場面、状況などを設定したことで、自然なやり取りの中で複数の領域を統合した言語活動を行うことができた。
 - 目的や場面、状況の設定が同じような形に偏ることが多かったため、工夫が必要である。
 - 実生活に即した課題の設定で相手意識が向上し、ALT のビデオ映像や ALT とのやり取りで生徒のモチベーションが向上した。
 - ・「深い学び」につながる教材の活用方法および情報共有
 - 教科書から実生活に即した内容につながる授業展開をすることができた。
- ③生徒の表現および表現しようとする意欲を高めるための評価の在り方の研究
- ・講師を招いた勉強会の実施
 - コロナ禍のため、勉強会の実施は今年度末に1回実施予定。来年度に実施する。
- ④教師の学び合いの場の充実
- ・指導案検討会を中心とした授業の在り方の研究
 - 英語科で指導案検討会を行い、授業実践、研究協議の場を設け、授業に生かすことができた。
 - スタート段階で各教師の取り組み方や研究内容の捉え方に差があった。
- ⑤個人のスピーキングやペアでの対話を録画
- 映像記録をする前に生徒たちが自主的に練習に励んだり、模範例を映像で示すことでどのような表現や対話が求められているのか理解しやすくなったりした。
- ⑥プレゼンテーション用のスライドを作成
- 説明用のスライドを作成することで、どのような伝え方がより伝わりやすいのかを考えて表現するようになった。
 - 原稿を見ながらの説明となったため、インタラクティブなやり取りにはならなかった。
- ⑦複数台の端末で ALT とビデオ通話 (パフォーマンステストを含む)
- 複数の ALT と同時に1対1の対話やパフォーマンステストを行うことで、時間短縮を図ることができた。また、実際に ALT と英語でコミュニケーションを図ることによって、対話することを楽ししさを感じたり、自信を持ったりすることができ、もっと話したいという意欲が高まった。

4 今後の取組

- ・検証授業や公開発表の実施と分析を行う。
- ・研究のキーワードである、目的や場面、状況などを授業で共有する、自らの考えを持つ、学び合う、の3つを継続する。
- ・CAN-DO リストを単元の最初に生徒と共有するだけでなく、単元の最後に授業で振り返る機会を設ける。また、CAN-DO リストの効果的な活用の仕方の確認と情報共有のための定期的な英語科部会を開催する。